

観察実習の効用—観察レポートの分析から—

○ 大西道子 秋山有見子
(札幌大谷短期大学)

I はじめに

短大に入学してくる学生は保育科といえど乳幼児と接した経験がほとんどない学生が大半である。それでも何故保育科を選択したかという質問に対しては「子どもが好きだから」「幼稚園時代の先生がとても優しくて・・・」「ピアノの趣味が活かせる・・・」等が多くの学生の進路決定の動機となっている。何となく染み込んでいる子ども観、保育観が見えてくる。保育の重要な側面として、子どもが「自らのアイデンティティをつくり上げるのを助ける仕事*」と考える。本学では、教育実習の第1段階として、1年次に附属幼稚園における観察実習を開講している。漠然とした思い込みの子ども観から、自分の目と耳で子どもを見て、感じて、保育のプロとしての子ども観・保育観の形成の一助となる体験学習と位置づけている。

本報告は、毎回の観察レポートから学生が一人一人の子どもをどう理解し、保育者への意欲を育んでいるかその経過を分析する。

II 観察実習の概要

週1回 a.m.9:00~10:00 または a.m.10:30~11:30

1クラスに所属し、1年間、原則同じクラスで観察課題を中心に観察する。

およそ1時間観察し、30分観察担当指導者(筆者)を交えて討論する。

観察結果は、毎回観察記録をレポートとして提出する。観察記録は、観察内容、観察視点に沿った、感想、考察とする。

観察課題は子どもに視点をおいたもの、先生を中心に見たもの、環境に視点をおいたもの、実習生に目を向けたもの等子ども観・保育観の形成を目標に組んでいる。

III 方法

1. 観察時期：平成11年4月～平成12年1月
2. 分析資料：保育科1年学生F、の記録、1年間のレポートの膨大な記録から入学当初、6月中旬、10月下旬(保育園実習前)11月下旬(保育園実習後)、1月下旬(最終観察日)

III 結果と考察

資料の感想部分の抜粋で学生が子どもの内面を推察していると考えられる部分を_____で、学生の子ども

観・保育観と考える部分を_____で示し、考察をすすめた。

記録1：4/23 年長男児(1人の子どもを行動を観察し、考察する。

4人でポケモンごっこをしている。3対1でH君が敵役、・・・5人に増える。・・・「1ぬけびっぴっ・・・」と他の子が順番にぬけていき、H君は1人でさまよって、すべり台で下へおりる。・・・自分の棚へ行き粘土を出したが先生に「おかたずけだよー」と言われてすぐしまう(すごく残念そうに見えた)・・・

(感想)

・・・最初のうちはお友達と元気に遊んでいたが、他の子が抜けていくと、ずっと1人であそんでいた。ちょっと心配になった。・・・他の子が楽しそうに遊んでいるのをじっと見るばかり。羨ましそうに思っているように見えた。でもシールをもらう時は、自分から言い出し、積極的だった。みんなで遊んでいる時は自らお友達にちょっかい出したりするが、1人の時は、きっかけをつかむ勇気が出ず、躊躇してしまう子だと思う。・・・次は、女の子を観察したい。

考察：観察対象児の選択は、4人の中で1人敵役をとっていたHが目立ったのであろう。1人でいる時間が長くなると気になる、心配になる、反対に他者に合わせる、指示に従うと安心するといった学生の姿がみえる。

記録2：4/30、年長女児Mの観察—(感想)

会話を聞いて驚いた・・・いろんな言葉を知ってるんだ・・・「ゲットした」とか・・・テレビや若者たちが、子どもに多大な影響を及ぼしていることがわかった。・・・、さすが女の子「～ごっこ」が好き(1)らしく、「パンやさんごっこ」をしていた。ブロックの色でそれぞれの材料にあてはめ、それをサンドイッチにして食べるマネは、さすが子どもの発想だな、と思った。「段」をイエに見立てたり、「鏡」をオバケにたとえたり、子どもはすぐ、何でも無いものを何かに楽しむことができる。・・・1人になってから、ぼーっとして、寂し気な表情も少し見えたが、1人でブロックを運んだりして、お友達がいつきても遊べるように、準備もしているかのようにみえた(2)。・・・その他の発見としては、子どもはおもしろいと思ったことを、くりかえし2回以上やること、お友達といったら、ささいなことでもおかしくなって笑い出してしまうこと等があった。・・・。

考察：1, 2は子どもの表情や行為に基づく子どもの気持ちを読みとる操作といえる。多くの子どもの姿の新しい発見として実感している様子が伺える。

「子どもとは」の枠を広げている姿、子どもの使う言葉とその出所（学習経路）、子どもの遊び方、発想の仕方（見立てたり、ふりをする）の豊かさ、ごっこ遊び（ままごと）は、女兒の遊びと自分のこれまでの経験（思い込み）と一致させての実感体験の考察である。女兒の遊びときめ付けている、これまでの子ども観の枠組みにとらわれた見方がまだまだ強い中での感動体験の段階といえる。

記録3：6/11

考察：・・・1人遊びができるため、1人で行動することが多いのかなと思う。1人である子というのは、輪の中に入りたくても入れない子、嫌われてしまっている子、1人で遊ぶのが好きな子などがあると思う。ひーちゃんの場合は1人でいて、遊びたくなったら、「～ちゃん、～しよう」と誘うことができる。でもやりすぎて「次これ・・・」など他者を振り回し気味で、いわれた子は少し困惑した表情をしている。嫌がられていることもありそうで、少し心配。これからもHちゃんを見ていこうと思う。

考察：1人行動の子Hについて「1人遊びができる・・・」と肯定的表現で観察し、1人である時の子どもの気持ちを読み取ろうとしている様子が感じられる。またHが他者と関わろうとする時の心境、他者への関わり方の下手さ、その時の他者の様子から他者の気持ちの読み取りもしている。

記録4：10/22 年長児の実習生の観察（感想）

・・・子どもは、注意しても、好き放題にしゃべったりするので、それに対してどう対応するかが大変で、私ならとまどってしまふ・・・・・・実習生に、いつも思うのだが、あまり注意をしない。・・・実習生ももっと注意してもいいと思う。

考察：保育園実習を目前に控えている時期の観察である。設定保育中の子どものおしゃべりに対しては、その内容は吟味せず、否定的である。実習を前にして先生の立場を意識すると、先生の指示に従わない子どもの存在が改めて気になりだした時期と言えそうである。

記録5：11/26。

各クラスの絵本、なわとび、音楽（モンキーダンスの踊り）、ピアノ、工作、お絵描き、ままごと、ちらし、積み木、ブロック等の道具・教材を使つての遊びかたを観察（感想）
 ・同じ遊び道具でも様々な遊び方があるんだなと思った。それは教えてもらうものではなく、子ども達自身が考え出すものであり、子どもの想像力のすばらしさだ。・・・幼稚園

は広いから走りまわれるし、積み木で大きなものを作れるのが楽しそうにみえた。・・・広いだけに先生の目が届かない所もあるが、4, 5才ともなると危ないことはちゃんとわかっているようだ。・・・

考察：子どもの自分で考え、生み出す想像力の大きさへの感動がある。子どもの遊びや物の使用に多様性を認め、それを子どもの発達していく大切な能力ととらえている。子どもの想像力と集団の力、幼稚園という環境との関係で子どもの姿をとらえ、子どもへの信頼感が高まっている段階と言えよう。

記録6：12/17 おもちつきの行事

保育の流れに沿ってFが思ったことの部分を列挙する。

- ・行事の歌はいい、歌でイメージが湧いてくる。
- ・先生は遅れてきた子にも焦らなくてもいいように配慮した声かけをしている。・・・先生の方向いて・・・という先生の言葉は「こっち」というより分かり易い言葉だ。

考察：体験・具体性の重要性の認識

記録7：1/21 自由テーマ、＜先生と子どもとの関わり方を観察し、担任の役割を考察する＞年長児

冬休み明けで、休み中の楽しかった体験発表の場面の観察である。

（感想）

・・・冬休み明けの子どもたちは、休み中にたくさん遊んだぞ、という満足そうな表情をしていました。みんな前でしゃべる時、とてもにこにこしてて、嬉しかったり、恥ずかしかったりして、ほんとに楽しかったんだなと思う。・・・

考察：観察実習の最終日で選んだテーマは先生の配慮であった。発表する時の並び方、おしゃべりする子に注意する、その他、新しいお友達にたいして、時計をみながら、帰りの会の先生の進め方を考察しているが、子どもの豊かな満足そうな表情を捉えており、そこには休み中の遊び体験の裏づけを読み取っている。

IV まとめ

1人の学生の観察記録を通しての保育観形成の過程の考察である。子どもに感動・1人行動に心配・指示に従える子に安心→子どもの概念拡大・強化→思い込みの訂正→教師の立場優先→子どもの想像力と遊び・潜在能力への信頼感の成立→イメージ作り・わかりやすい言葉遣いへの関心の増大→子どもが楽しむ、その奥にある体験の重要性の認識と考察した。しかしここでの分析は資料の代表ではあるが一部分で、→は単純な一方向のものではなく、行きつ戻りつ、同時進行しつつの複層性・逆方向性も含んでいると考える。

引用文献

*津守真 保育者の地平 ミネルヴァ書房 1997年